

St. Luke's International University Repository

聖路加国際病院リエゾンコミッティ研修報告:学術活動報告 (2001年度)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2007-12-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 森, 明子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10285/427

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



聖路加国際病院リエゾンコミッティ研修報告

2001年8月11日(土)から8月19日(日)まで、森明子、片桐麻州美、長江弘子、中山久子は、聖路加国際病院リエゾンコミッティを通じ、アメリカン・カウンシルの助成を受け、研修する機会を得た。主な研修先は米国カリフォルニア大学サンフランシスコ校 School of Nursing（以下 UCSF とする）であった。研修目的は、大学看護教員による臨床看護実践活動の実際、大学院教育における看護実践および研究のコラボレーション、地域コミュニティのヘルスケアニーズあるいはヘルスケアプロブレムに対する大学の役割と関連する教員・学生の活動、大学の学生保健センターの機能と役割、活動の実際を学ぶことであった。Valencia Health Services, San Francisco General Hospital, UCSF Student Health Services など関連施設（部門）5ヶ所の視察およびファカルティ7名へのインタビューを行った。ファカルティの中にはボランティア臨床准教授も含まれた。UCSFにはユニフィケーション・モデル以外のあらゆるタイプのファカルティ・プラクティスが存在していた。また、博士課程における研究者養成、修士課程における上級実践者養成と、教育内容に沿った教員の組織化が進んでいた。ファカルティが学生の教育と看護実践および研究をコラボレートすること、大学として地域コミュニティのヘルスケアニーズに応えることを高く価値づけ、機能させる努力をしている様子などを学ぶことができた。

（母性看護・助産学：森 明子）